

山梨県笛吹市

# 下神之木遺跡

畑地帯総合整備事業笛吹川左岸地区支線2号2工区  
農道整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016・3

山梨県峡東農務事務所  
笛吹市教育委員会

# 序

本書は平成26年度に実施された下神之木遺跡（笛吹市八代町北）の発掘調査報告書です。

本遺跡からは奈良時代の竪穴住居跡2軒が良好な状態で確認されました。奈良時代は甲斐国分寺などが造営され笛吹市にとっても重要な時代であり、同時代における民衆の歴史を解き明かす上でも有効な資料になるのではないかと思われます。

笛吹市ではこれまで『甲斐国千年の都』として、岡・銚子塚や竜塚などの前期古墳、姥塚などの後期古墳、甲斐の国府推定地として知られる春日居町国府や御坂町国衙、県下最古の寺院である寺本廃寺跡、甲斐国分寺跡や国分尼寺跡などの官営寺院などを広く紹介してきました。

一方で豊富な資料を有する縄文時代中期を中心とした遺跡に注目した歴史フォーラムの開催や冊子の刊行、ガイドマップ類の作成に力を入れてまいりました。本報告書の刊行により、奈良時代の良好な資料を提示することが出来たことで、この取り組みがより厚みを増してきたのではないかと考えております。

発掘調査にあたり、ご理解、ご協力を賜りました山梨県東農務事務所、ご指導ご協力を賜りました山梨県教育委員会はじめ関係諸機関、発掘調査においてご不便をおかけいたしました地元地権者各位、隣接農地の耕作者各位、発掘調査に参加いただきました作業員各位に深く感謝申し上げ、この発掘調査報告書の刊行の序文に代えさせていただきます。

平成28年3月

笛吹市教育委員会  
教育長 坂本誠二郎

## 例　　言

- 1、本書は、山梨県笛吹市八代町北地内に所在する下神之木遺跡の発掘調査報告書である。
- 2、本調査は、山梨県東農務事務所による畠地帯総合整備事業笛吹川左岸地区支線2号2工区農道建設に伴うものであり、東建設事務所の委託を受けた笛吹市教育委員会が調査主体となり発掘調査・整理作業・報告書作成を行った。
- 3、試掘調査は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金並びに山梨県文化財保護事業費補助金を活用し、2014年（平成26年）2月13日から3月10日まで実施した。
- 4、発掘調査（現場作業）は2014年（平成26年）10月24日から11月11日まで実施した。
- 5、本報告書の編集及び執筆は、瀬田正明が行った。
- 6、本書に掲載した遺構写真は望月和幸が撮影した。遺物写真の撮影は昭和測量株式会社に委託した。墨書き器の赤外線写真は、山梨県立博物館の協力を得て瀬田が撮影した。
- 7、発掘調査及び整理作業のうち一部の業務は、以下の機関に委託並びに協力を得た。  
　基準点測量 昭和測量株式会社  
　空中写真・オルソ画像撮影 昭和測量株式会社  
　遺物実測・デジタルトレース・写真撮影 昭和測量株式会社
- 8、本報告書に係る出土品および記録図面・写真などは一括して笛吹市教育委員会に保管してある。
- 9、発掘調査・報告書作成に際し、下記の方々からご協力、ご教示を頂いた。  
記して感謝の意を表したい。

八代町北区、地権者各位、隣接耕作者各位、山梨県東農務事務所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター、山梨県立博物館、公益財団法人山梨文化財研究所、谷口一夫（笛吹市文化財保護審議委員）、長沢宏昌（同）、森原明廣、西願麻以

（順不同・敬称略）

## 凡　　例

本書における遺構・遺物の表示は以下のとおりである。

- 1、遺跡全体におけるX・Y座標は、世界測地系平面直角座標第VII系の座標値を示している。遺構断面図等脇の数値は、標高を示す。
- 2、遺構番号は原則として発見順に付している。
- 3、掲載図の縮尺は原則として以下のとおりである。  
　遺構図 住居跡 1/60 住居内竈 1/30  
　遺物図 土器・陶器 1/3 金属製品 1/2
- 4、本書で用いた地図は、国土地理院発行「石和」1/25,000（第1図）、八代町発行「都市計画基本図5」1/2,500（第2図）である。
- 5、土層説明および出土遺物観察表の色調の表示は、『新版 標準土色帳』26版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 小山正忠・竹原秀雄著 2004）によっている。
- 6、観察表の（　）内の数値は、推定値である。

# 調査組織

## 調査事務局

坂本誠二郎（笛吹市教育委員会教育長）  
堀内常雄（笛吹市教育委員会教育部長）平成 25・26 年度  
雨宮寿男（笛吹市教育委員会教育部長）平成 27 年度  
田中育也（笛吹市教育委員会文化財課長）平成 25 年度  
猪股喜彦（笛吹市教育委員会文化財課長）平成 26・27 年度

## （試掘調査）平成 25 年度

発掘調査担当者 望月和幸（笛吹市教育委員会文化財課）  
発掘調査作業員 荒川公子、荒川奈津江、大久保良信、北原耕助、柄美代子、土屋美保子、  
中込柳、萩原森詞、馬渕泰藏、矢崎緑  
室内整理作業員 高野万寿美、角田万紀、藤原さつき、藤巻淑子

## （本調査）平成 26 年度

発掘調査担当者 望月和幸（笛吹市教育委員会文化財課）  
発掘調査補助者 山下未央（笛吹市教育委員会文化財課）  
発掘調査作業員 大久保良信、中込柳、萩原森詞、馬渕泰藏  
室内整理作業員 藤巻淑子、角田万紀

## （整理作業）平成 27 年度

整理作業担当者 濑田正明（笛吹市教育委員会文化財課）  
室内整理作業員 藤巻淑子、角田万紀

# 目次

序	
例言・凡例	
調査組織	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真図版目次	

第1章 調査経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 遺跡の概要	3
第1節 地理的・歴史的環境	3
第3章 調査の方法と基本層序	7
第1節 試掘調査の概要	7
第2節 調査の方法	7
第3節 基本層序	7
第4章 検出された遺構と遺物	7
第1節 竪穴住居跡	7
第2節 その他の遺構・遺構外出土遺物	8
第5章 結語	17
引用・参考文献	
報告書抄録	

# 挿図目次

第1図 遺跡位置図 (S=1/25,000)	2
第2図 調査地周辺図 (S=1/2,500)	4
第3図 試掘調査全体図 (S=1/500)	5
第4図 下神之木遺跡全体図 (S=1/100)	6
第5図 1号住居跡	9
第6図 1号住遺物出土状況	10
第7図 2号住居跡	11
第8図 2号住遺物出土状況	12
第9図 住居跡出土遺物（1）	13
第10図 住居跡出土遺物（2）	14
第11図 住居跡出土遺物（3）・遺構外出土遺物	
	15

# 表目次

表1 出土遺物観察表	16
------------	----

# 写真図版目次

図版1 下神之木遺跡 オルソ画像 (S = 1/100)	
図版2 1 調査地点近景 (南から)	
2 調査地点俯瞰写真 (上が東)	
3 調査地点全景 (南から)	
4 調査地点全景 (西から)	
5 調査地点全景 (正南から)	
図版3 1 1号住居跡 (西から)	
2 1号住 遺物出土状況 (遺物1)	
3 1号住 遺物出土状況 (遺物2)	
4 1号住 竈セクション	
5 1号住 竈	
図版4 1 2号住居跡 (西から)	
2 2号住 遺物出土状況 (北から)	
3 2号住 遺物出土状況 (西から)	
4 2号住 竈セクション	
5 2号住 竈	
図版5 住居跡出土遺物（1）	
図版6 住居跡出土遺物（2）・遺構外出土遺物	

## 第1章 調査経過

### 第1節 調査に至る経緯

下神之木遺跡は、笛吹市八代町北に位置する縄文時代、古墳時代、平安時代、中世という広い時代にまたがる遺物散布地として知られている。

当該遺跡を含む地域において山梨県峠東農務事務所により畑地帯総合整備事業（笛吹川左岸地区支線2号2工区）に伴う農道整備事業が計画され、平成26年1月30日付で峠東農務事務所長より文化財保護法94条に基づく埋蔵文化財発掘の通知が笛吹市教育委員会に提出された。市教育委員会では、工事計画が遺跡の保存に影響を及ぼすと判断して、対象地において埋蔵文化財の有無及び性格を把握するための試掘調査の実施が適当である旨の意見を添え、通知を山梨県教育委員会に進呈した。

平成26年2月12日、県教育委員会教育長より試掘調査を行う必要がある旨の通知があり、市教育委員会では峠東農務事務所長宛に伝達した。

峠東農務事務所と市教育委員会では、対象地における埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、試掘調査は市教育委員会が文化庁・県の補助金を活用して実施することになり、平成26年2月13日より試掘調査に着手した。

試掘調査では、全体に土師器小片の若干の散布はあるものの、対象地南端付近で遺物が集中的に出土し、住居跡と思われる遺構が検出された。市教育委員会では調査結果を踏まえて、対象地南端の幅約5m×延長約30mの範囲について、埋蔵文化財の保存措置が必要であることを峠東農務事務所と県教育委員会に報告した。

峠東農務事務所と市教育委員会では、対象地における埋蔵文化財の保存措置について再度協議し、峠東農務事務所が費用負担し市教育委員会が発掘調査を実施して記録保存を行うことで合意した。また、発掘調査は果樹収穫終了後の平成26年秋に実施することとなった。

以上の経緯を経て、平成26年10月24日より発掘調査に着手した。

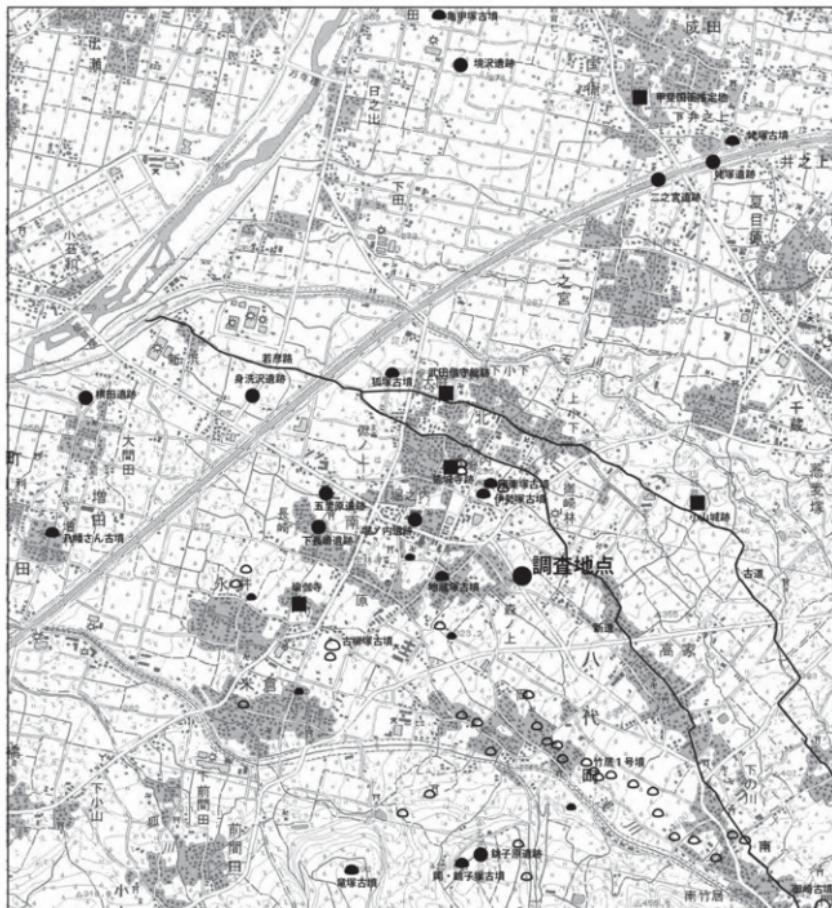
本調査にかかる諸手続きについては、下記のとおりである。

文化財保護法94条に関する埋蔵文化財発掘の通知	平成26年1月30日
周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）	平成26年2月12日
試掘調査	
文化財保護法99条における着手報告	平成26年2月13日
文化財保護法第100条第2項、遺失物法による埋蔵物発見届	平成26年3月10日
本調査	
文化財保護法99条における着手報告	平成26年10月30日
文化財保護法100条第2項、遺失物法による埋蔵物発見届	平成26年11月17日

### 第2節 調査の経過

発掘調査は、平成26年10月24日に着手した。まず作業員の手掘りによりテストピットを掘削し、遺構検出面の確認を行った。10月27日に重機によって表土を除去し、作業員の手作業により遺構の平面確認を行った。10月28日から遺構を掘り下げ、土層断面の観察、遺物の取り上げ、竈等微細部の掘り下げ・観察を順次行い、11月7日に全体平面図を作成した。11月11日にラジコンヘリによる全景写真・オルソ画像の撮影を行って現地での作業を終了した。なお、調査終了後直ちに工事着工となるため、現地の埋め戻しは行っていない。

整理作業は、平成26年度に基礎的整理作業、27年度に整理作業を実施し、報告書を作成した。



第1図 遺跡位置図 (S=1/25,000)

## 第2章 遺跡の概要

### 第1節 地理的、歴史的環境（第1図・第2図）

下神之木遺跡は、山梨県笛吹市八代町北に所在する。八代地域は御坂山塊から流れ出す浅川によって形成された扇状地上に発達してきた。調査地も浅川扇状地の扇央部に位置し、標高は約322mである。調査地周辺は、ブドウ、桃、スモモといった果樹栽培に適した地域であり、周囲には果樹園が広がっている。調査区の南側には、かつて小河川が東から西に流れていたが、現在は道路となっており、その姿を見ることができない。

八代地域では縄文時代から近世にかけて多くの遺跡が認められている。縄文時代では丘陵上の花鳥山遺跡や銚子原遺跡の大規模な集落が著名であるが、本遺跡周辺の堀ノ内遺跡や金地蔵遺跡でも遺構・遺物が散見される。また、笛吹川左岸の沖積地である横田遺跡からも縄文中期後葉の土器が出土している。

弥生時代では扇端部から沖積地にかけて立地する身洗沢遺跡で住居跡や水田跡が確認され、木製農耕具などが出土した。

古墳時代になると、丘陵上に岡・銚子塚古墳（前方後円墳・全長92m）や竜塚古墳（方墳・一辺56m）の大規模な古墳が出現し、次いで扇状地上に孤塚古墳や团栗塚古墳などの帆立貝式古墳が築造される。古墳時代後期には、浅川の右岸沿いを中心に横穴式石室を埋葬主体とした小規模な古墳が築造され、群集墳を形成する。地蔵塚古墳の横穴式石室は全長10.1mでこの地域の古墳の中では最大であるが、山梨県内においても御坂地域の姥塚古墳・甲府市の加牟那塚古墳・万寿森古墳に次ぐ規模である。また、古柳塚古墳からは鉄製壺鑑や金銅製心葉形鏡板付轡などの馬具や銀象嵌円頭把頭などが、御崎古墳からは金銅製毛彫馬具が出土している。近年発掘された竹居1号墳からは銀象嵌を持つ鐔及び刀装具が出土し、注目されている。

同時期の集落は五里原遺跡や下長崎遺跡、堀ノ内遺跡、八王子遺跡、金地蔵遺跡など本遺跡周辺の遺跡で確認されており、それぞれ奈良・平安時代まで継続している。この時代の集落は平安時代の『和名類聚抄』に記載された古代甲斐国の大八代郡八代郷・長江郷を構成する集落であると考えられている。八代郷は郡名を冠していることから八代郡家の所在郷である可能性が高く、堀ノ内遺跡周辺に郡家の存在が指摘されている。また、長江郷の遺称である永井地区の瑜伽寺では、甲斐国分尼寺跡出土瓦と同范の瓦が出土している。瑜伽寺には奈良時代の塑像仮残欠や平安時代の木造仏が残されており、古代寺院の伽藍が周辺に埋もれているものと思われる。

八代地域には甲斐国と駿河国を結ぶ古道「若彦路」が通っている。若彦路周辺には倭建命（日本武尊）の伝承が残っており、5世紀以降に利用されていたと推定されている。奈良時代以降の官道である古東海道（御坂路）よりも一段階古い主要道として八代地域に大きな影響を与えていている。若彦路のルートは時代によっていくつかの変遷を経ているが、古道は笛吹川左岸の新浜から孤塚古墳、武田信守館跡、小山城跡、高家熊野神社、花鳥山などを通って烏坂峠へ向かっていた。また新道は孤塚古墳の脇で分岐し、熊野神社から高家、門林を経て古道に合流している。本遺跡のすぐ北側を新道（あるいは新々道）が通過している。

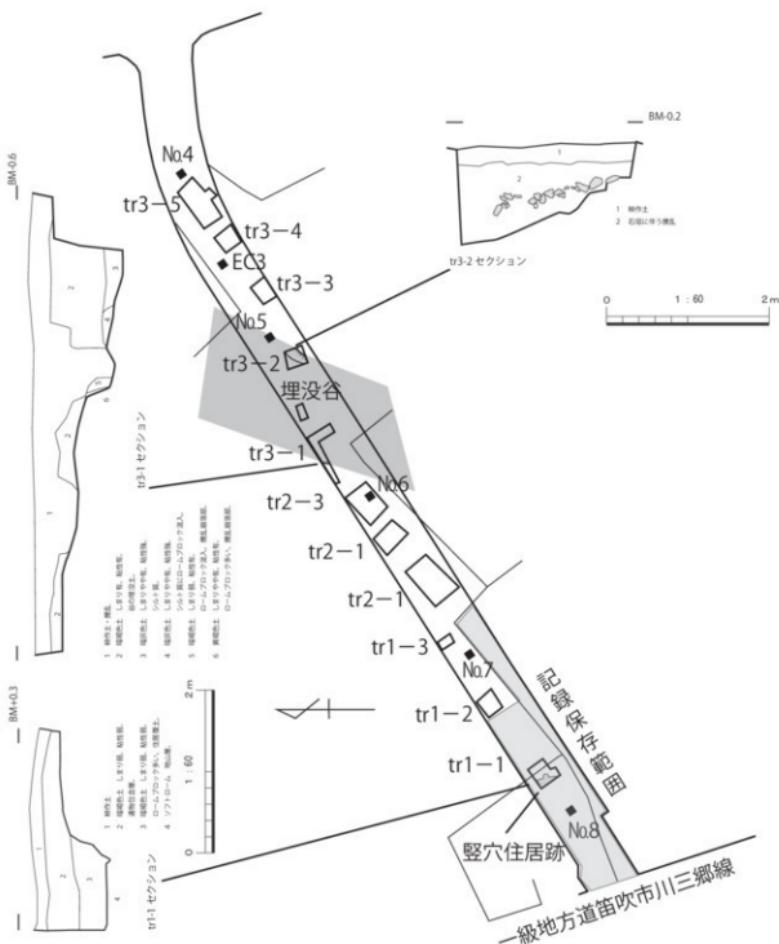
古代末期には紀伊熊野神社の莊園である「八代庄」が成立し、莊園の停廢をめぐる莊園領主と国衙勢力との争いが『長寛勘文』として残されている。八代町北地区に鎮座する熊野神社は、この時期に勧請されたものと考えられ、莊名の由来となっていることから八代庄の中核部であったと思われる。

北地区の清道院の境内周辺には方形に土壘の痕跡が残っており、室町時代の甲斐国守護武田信成あるいは武田信守の館跡と伝えられている。また、同地区的能城寺跡では百基を超える五輪塔・宝篋印塔が出土し、南北朝期の年号が彫られているものも含まれていた。能城寺は武田信守の菩提寺であり、現在は甲府市内に移転している。

高家地区的小山城跡は、武田氏の一族である穴山氏が拠ったと伝えられ、守護武田家や甲斐国内諸勢力との抗争が伝えられている。小山城跡は、武田家滅亡後に徳川家と北条家で甲斐国領有を争った際にも徳川方の拠点となっており、甲斐国と駿河・南関東との交通をめぐる要の地であったことが窺われる。



第2図 調査地周辺図 (S=1/2,500)

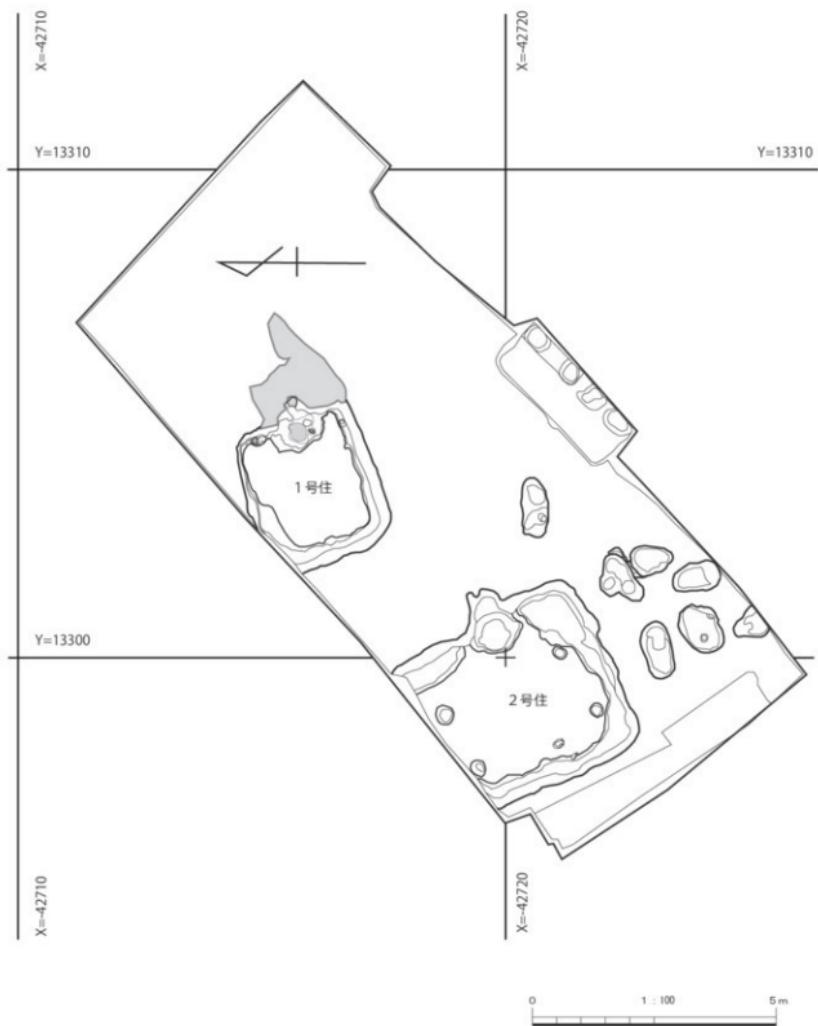


試掘調査におけるベンチマークの標高は任意。

北は磁北を指す。

No.は計画道路のセンター線を示す。

第3図 試掘調査全体図(S=1/500)



第4図 下神之木遺跡全体図 ( $S=1/100$ )

## 第3章 調査の方法と基本層序

### 第1節 試掘調査の概要（第3図）

試掘調査は平成26年2月13日から3月10日まで実施した。対象地に13ヶ所の試掘坑を設定し、人力によりソフトローム層まで掘削、遺構確認を行った。

調査の結果、調査区西南部に設定した1-1トレンチで竪穴住居跡を確認した。サブトレンチで検出面から床面まで約20cmが残ることが確認された。調査区中央部に当たる3-1・3-2トレンチでは埋没谷が確認された。埋没谷より北では遺構は確認されなかった。

上記のような調査結果から、埋没谷より北では遺構がなく、確認された住居跡を中心に調査区の南端部を対象として、記録保存を目的とした本調査が必要と判断した。

### 第2節 調査の方法

試掘調査結果に基づき、遺構が検出された試掘調査エリア南端約200mを対象に本調査を実施した。

調査は、重機により耕作土を除去後、人力による遺構検出面の精査を行い、住居跡プラン2基及び土坑状プランを確認。それぞれの覆土を掘り上げ、土層断面観察を行いつつ記録を作成した。

記録の作成に当たっては、調査区内に世界測地系に即した座標を設置した。調査区が狭小であるため特別なグリッドは設定しなかった。遺構の測量は土層断面・平面図とも手実測で行った。遺物は平面図上に位置を記録して取り上げた。小破片について遺構ごとに一括出土遺物として取り上げた。

遺構・遺物の出土状況の撮影はデジタル一眼レフカメラを使用し、デジタル画像として記録した。調査区の全景写真及びオルソ画像は昭和測量株式会社に委託して、ラジコンヘリを用いて撮影した。

### 第3節 基本層序

下神之木遺跡における基本層序は、試掘調査1-1トレンチで確認し、以下のとおりである。

第1層 耕作土 約15cm。

第2層 暗褐色土 しまり弱。粘性弱。遺物包含層。約20~30cm。

第3層 暗褐色土 しまり弱。粘性有。ロームブロック多い。住居跡覆土。

第4層 ソフトローム 地山層。

このうち第4層上面を遺構検出面として、遺構の平面確認を行った。

## 第4章 検出された遺構と遺物

### 第1節 竪穴住居跡

竪穴住居跡は2軒検出されている。2軒の竪穴住居跡はほぼ同方向に作られており、2軒の間は上場端で2.40m離れている。

#### 1号住居跡（第5図・図版3）

主軸 N-75°-E

遺構概要 東辺およびカマドの上部を搅乱されると共に、覆土中まで大きく搅乱されている。北西コーナー部分が調査区外に続いている。遺構規模は、確認面上場にて東西3.13m、南北2.70m、床面にて東西2.66m、南北2.22mの方形を呈す。床面までの深さは0.30mを測る。竈は住居跡東辺の中央付近に設けられている。竈内に構築材の粘土や礫、支柱石などは残存せず、火床面及び煙道の掘り込みが確認された。竈の両脇から周溝が床面を一周しており、特に北西コーナー付近では大きく広がっている。

遺物出土状況（第6図） 出土遺物は多くなかったが、南東と北西のコーナー付近の床面から土師器の壺類が出土している。

**出土遺物（第9図・図版5）** 図示した遺物はいずれも土師器で、壺が3点、甕が2点である。壺は3点とも異なる形状をしている。1は推定口径19.3cmの大型の壺で、内外面クロナデ、底部に静止糸切り痕を残す。2も口径18.8cmの大型の壺で底部も含めて内外面が丁寧にヘラミガキされ、みこみ部は放射状暗紋となる。底部に墨痕があるが、赤外線撮影でも文字かどうかは判然としなかった。3は、口径14.7cm、器高3.3cmの浅めの盤状の壺で、内外面クロナデ、底部を持ちヘラ削りされている。土師器甕2点は、いずれも底部破片である。

**時期** 2の大型の壺と3の盤状の壺が共伴する例は一宮町竜ノ木遺跡5号住や同筑前原北遺跡16号住で確認されており、8世紀第2四半期に位置付けられる。

## 2号住跡（第7図・図版4）

主軸 N-63°-E

**遺構概要** 覆土北半部が大きく攪乱されているが、残存状態は良好。北辺部分が調査区外に続いている。遺構規模は、確認上面場で東西3.80m、南北4.05m以上、床面で東西3.86m、南北3.91m以上で方形を呈す。床面までの深さは0.31mを測る。竈は住居跡東辺の中央付近に設けられている。火床面及び煙道の掘り込みが確認され、火床面に支柱石が残っていた。土層観察から6層が粘土袖の残骸かと考えられる。竈前面には濃い焼土及び焼土粒が広く散っていた。竈の両脇から周溝が床面を一周すると考えられる。周溝は全体に幅広で、特に南東コーナー部分が土坑状に落ち込んでいた。ピットは床面上に4基確認した。P1は直径0.29m、深さ0.21m。P2は直径0.2m、深さ0.05m。P3は直径0.25～0.35m、深さ0.16m。P4は直径0.21m、深さ0.09m。4基は対角線上に配置されており、柱穴と考えられる。

**遺物出土状況（第8図）** 出土遺物は多めであるが、覆土の上・中層から出土した土器片が多い。須恵器・土師器の壺は住居跡南辺中央付近と北西コーナー付近から多く出土しているが、1と4のように両者が接合した例もある。土師器甕類は竈上から南側で出土している。南辺中央部の床面から須恵器長頸瓶が出土している。また、図化はしていないが覆土中から須恵器甕の破片が10数点出土している。

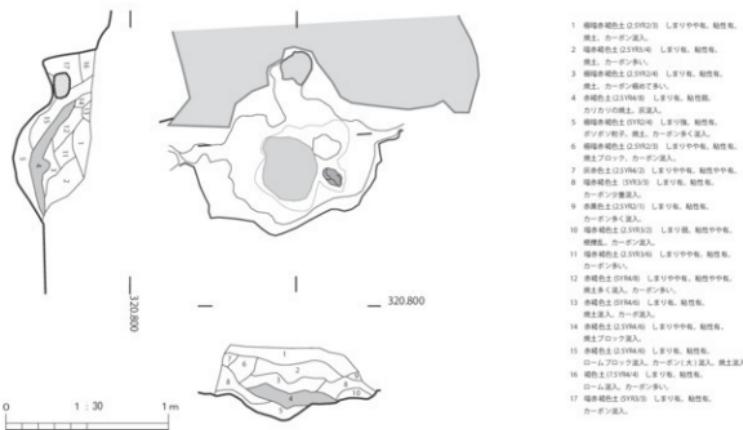
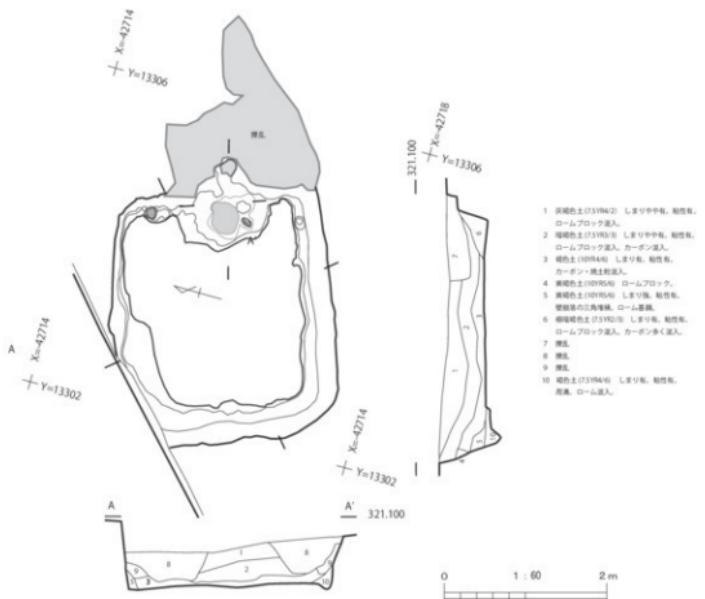
**出土遺物（第9～11図・図版5・6）** 図示した遺物は須恵器壺4点、土師器壺5点、土師器皿1点、須恵器甕破片1点、須恵器長頸瓶1点、土師器甕4点の合計15点である。須恵器壺は口径15.3cmのやや大型のもの（1）と口径13cm台のもの（2～4）に分けられる。いずれも内外面クロナデで、底部は回転糸切り痕が残るもの（1・3・4）と持ちヘラ削りされるもの（2）に分かれる。土師器壺は大型のものの（5）と浅い盤状のもの（6～8）とに分けられる。5は大型の壺で外面に横方向のヘラミガキ、内面はみこみ部を含めて放射状暗紋が施されている。6～8はいずれも内外面クロナデで、底部下半から底部を持ちヘラ削りしている。7の底面には静止糸切り痕が残る。また、6は底部に「×」、7は体部外面に「八十」、8も体部外面に線刻を持つ。9は土師器皿で底部に「置？」の墨書を持つ。10は須恵器の体部破片で、内面を転用硯として使用している。破断面の一部を磨いており、風字硯の形状に加工したものと思われる。11は須恵器長頸瓶。12は土師器の広口の甕。13～15はやや小形の土師器甕と考えられる。

**時期** 5の大型の壺は内面の放射状暗紋と外面の横方向のヘラミガキという甲斐型壺の初期の特徴を持っている。また、6～8の盤状の壺はいずれも1号住の3に比べて底部が平底に近くなっている。5は一括で取り上げた破片が接合したものであり出土地点が明確ではないが、8世紀第2四半期から第3四半期に位置付けられるだろう。また、出土地点不詳の9と覆土上層から出土した13は9世紀台に属するものであり住居跡廃絶後に流れ込んだものと思われる。

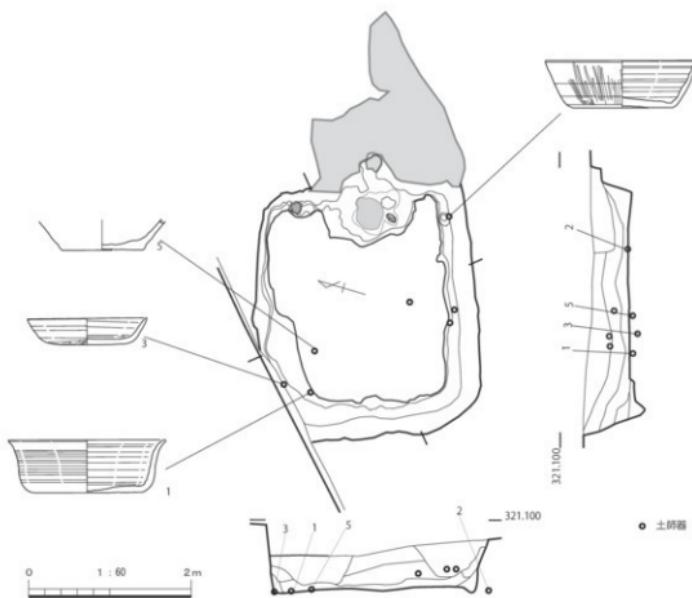
## 第2節 その他の遺構・遺構外出土遺物（第11図・図版6）

調査区南西のコーナー付近から浅い土抗状の落ち込みが検出された。覆土はいずれも黒色でしまりがほとんどない。そのため、ぶどう棚の杭か畑の耕作による攪乱であると判断した。

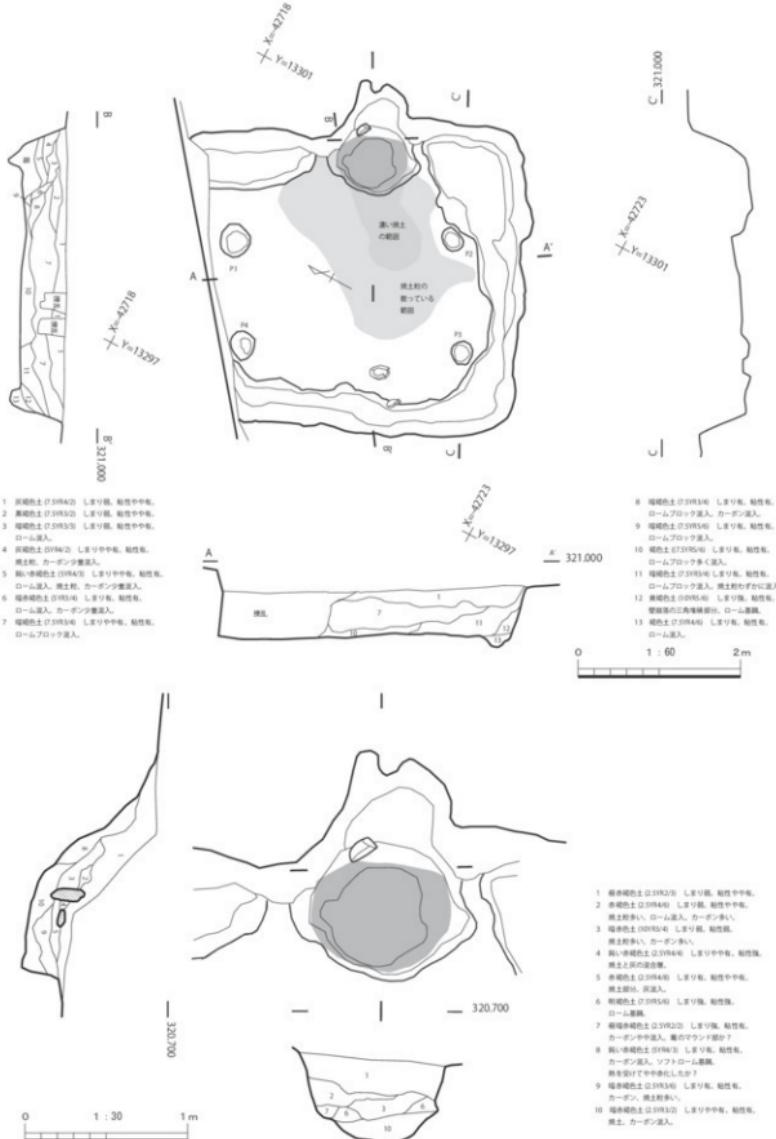
遺構外からは火打ち金が1点出土した。



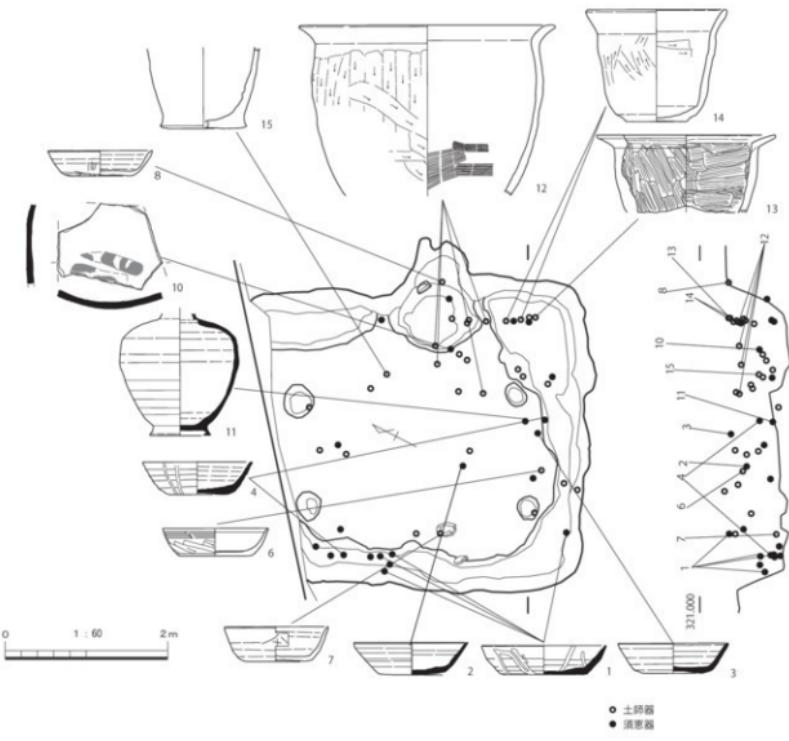
第5図 1号住居跡



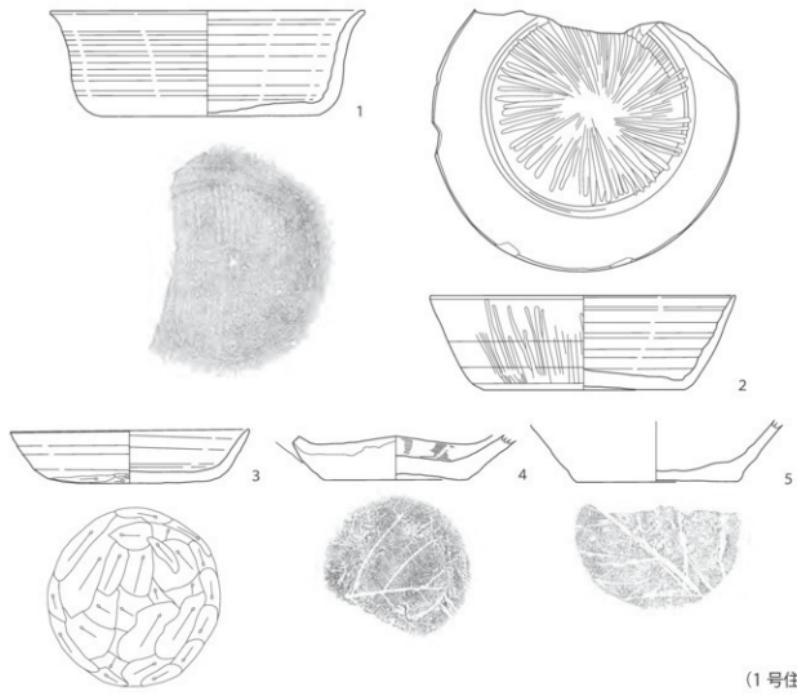
第6図 1号住遺物出土状況



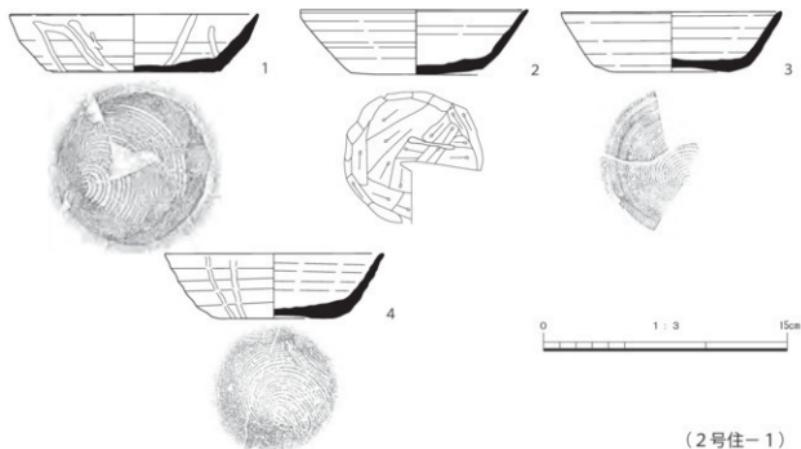
第7図 2号住居跡



第8図 2号住遺物出土状況

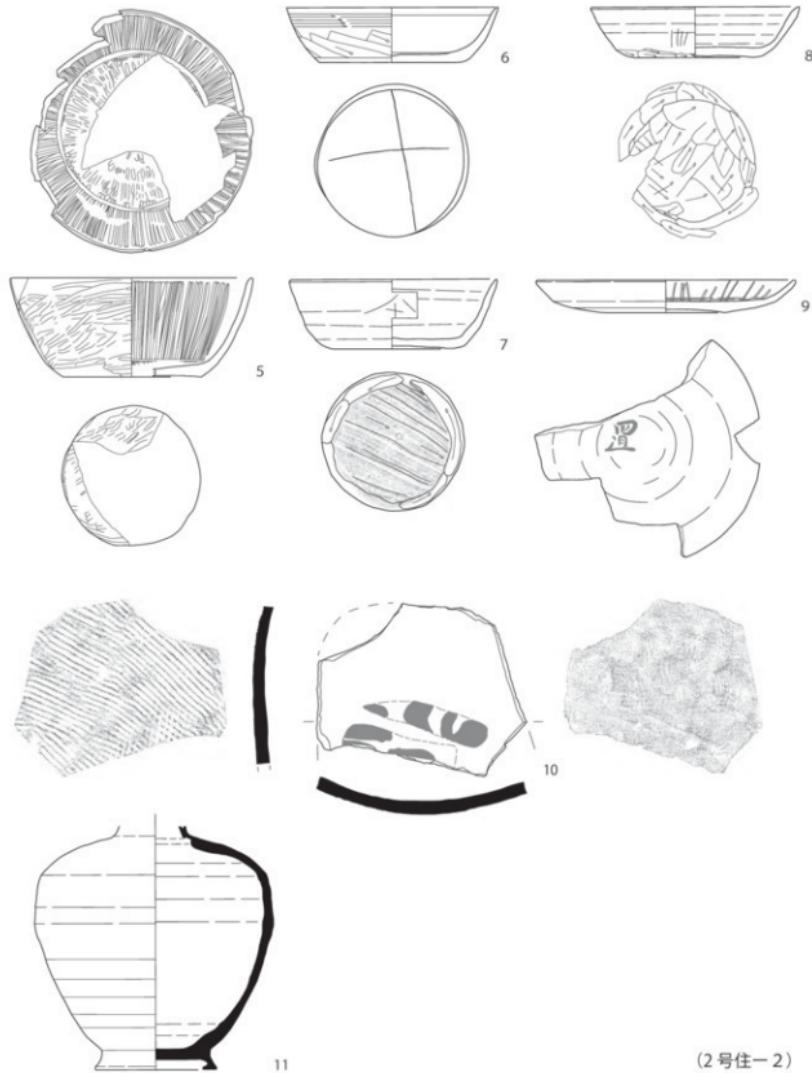


(1号住)

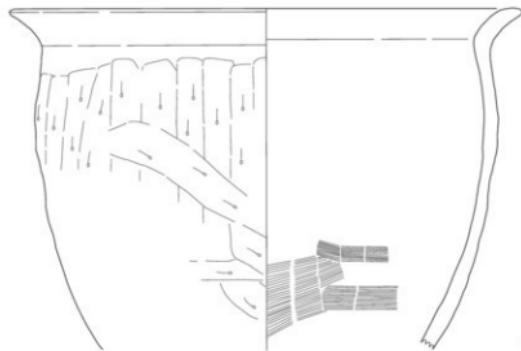


(2号住-1)

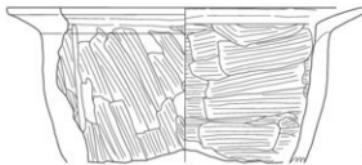
第9図 住居跡出土遺物 (1)



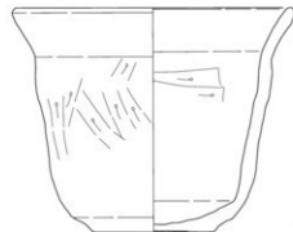
第10図 住居跡出土遺物



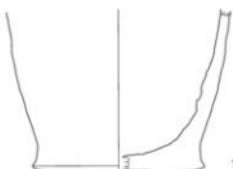
12



13

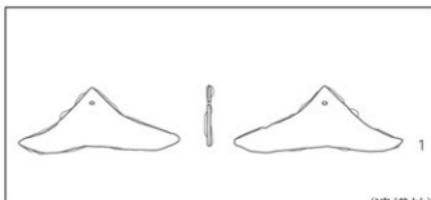


14



15

(2号住-3)



(遺構外)

第 11 図 住居跡出土遺物（3）・遺構外出土遺物

記号番号	通称名	No.	場所	器種	部位	□縫	縫合率(%)	遺存(%)	器面	調査等		色調	内面	外腹	轟打切り	内面	外腹	轟打切り	内面	外腹	轟打切り	内面	外腹		
										縫合率~	保存(%)					縫合率~	保存(%)	縫合率~	保存(%)	縫合率~	保存(%)	縫合率~	保存(%)	縫合率~	保存(%)
第9回	1号住	1	土師器	坪	器種	□縫	19.3	30	(14.0)	60	6.5	ナデ	ナデ	ミガキ	ミガキ	7.5/86/6褐色	7.5/86/6褐色	0/87/4にぶい褐色	0/87/4にぶい褐色	赤、茶色・白色含む	赤、茶色・白色含む	良	□縫打切り遺物見込み中央		
第9回	1号住	2	土師器	坪	器種	□縫	18.8	75	12.5	80	5.8	三方に下端へ少 ケズリ	三方に下端へ少 ケズリ	木質面	木質面	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	赤、赤褐色・茶色含む	赤、赤褐色・茶色含む	良	見込み多い 見込み又利 底部に墨 書きの痕跡有		
第9回	1号住	3	土師器	坪	器種	□縫	14.7	100	10.7	100	3.3	クロロナデ	クロロナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	5/85/8明赤褐色	5/85/8明赤褐色	5/85/14にぶい褐色	5/85/14にぶい褐色	赤、褐色食入	赤、褐色食入	良	器身ごく微傷有		
第9回	1号住	4	土師器	要	器種	□縫	—	—	—	9.2	75	(2.7)	ナデ	板状工具ナデ	板状工具ナデ	木質面	木質面	7.5/86/6褐色	7.5/86/6褐色	0/87/4にぶい褐色	0/87/4にぶい褐色	やや粗、長石・石英・2mm	やや粗、長石・石英・2mm	良	底付
第9回	1号住	5	土師器	要	器種	□縫	—	—	10.0	50	(3.7)	ナデ	ヘラナデ	木質面	木質面	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	2.5/76/3にぶい褐色	2.5/76/3にぶい褐色	赤、白駆除・白色含む	赤、白駆除・白色含む	良	火薬		
第9回	2号住	1	漆黒器	坪	器種	□縫	15.3	95	10.0	100	3.6	クロロナデ	小黒、クロロナデ	木黒、クロロナデ	木黒、クロロナデ	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	10/86/3にぶい褐色	10/86/3にぶい褐色	赤、茶色・白色含む	赤、茶色・白色含む	良	内面に粘膜 1点有		
第9回	2号住	2	漆黒器	坪	器種	□縫	13.9	60	8.1	60	4.0	クロロナデ	クロロナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	10/87/3にぶい褐色	10/87/3にぶい褐色	10/87/3にぶい褐色	10/87/3にぶい褐色	長石・石英含む	長石・石英含む	良	運送時、二度火成の可能性		
第9回	2号住	3	漆黒器	坪	器種	□縫	13.6	30	(7.0)	30	3.7	クロロナデ	クロロナデ	木黒	木黒	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	5/85/14にぶい褐色	5/85/14にぶい褐色	赤、赤褐色含む	赤、赤褐色含む	良	性あり		
第9回	2号住	4	漆黒器	坪	器種	□縫	13.4	90	7.6	100	4.0	クロロナデ	黒特及び心臓の 黒色あり	黒特及び心臓の 黒色あり	黒特及び心臓の 黒色あり	5/85/7灰白色	5/85/7灰白色	2.5/77/1灰白色	2.5/77/1灰白色	赤、褐色含む	赤、褐色含む	やや火薬、重化及び粘膜部分	やや火薬、重化及び粘膜部分		
第10回	2号住	5	土師器	坪	器種	□縫	15.0	60	8.5	60	6.1	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	10/86/1灰白色	10/86/1灰白色	10/87/3にぶい褐色	10/87/3にぶい褐色	赤、赤褐色・茶色含む	赤、赤褐色・茶色含む	良	不規格 1点有		
第10回	2号住	6	土師器	坪	器種	□縫	13.0	75	9.2	100	3.4	ナデ、下端へラテ ズリ	ナデ、下端へラテ ズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5/85/6明赤褐色	7.5/85/6明赤褐色	5/85/4にぶい褐色	5/85/4にぶい褐色	赤、茶色・白色含む	赤、茶色・白色含む	良	外縫に縫合有		
第10回	2号住	7	土師器	坪	器種	□縫	12.9	100	8.8	100	4.3	クロロナデ	クロロナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	赤、赤褐色・茶色含む	赤、赤褐色・茶色含む	良	体形外縫に縫合有		
第10回	2号住	8	土師器	坪	器種	□縫	12.9	30	7.5	80	3.1	ナデ	ナデ、ミガキ	ミガキ	ミガキ	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	5/85/4にぶい褐色	5/85/4にぶい褐色	赤、茶色・白色含む	赤、茶色・白色含む	良	外縫に縫合有		
第10回	2号住	9	土師器	皿	器種	□縫	16.0	30	7.2	60	2.0	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ヘラケズリ	圓文	圓文	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	5/85/6明赤褐色	赤、茶色・白色含む	赤、茶色・白色含む	良	外縫に「？」の墨書		
第10回	2号住	11	漆黒器	坪	器種	□縫	—	—	7.5	100	(15.1)	ナデ、ズリ	ナデ	—	—	2.5/74/1黒灰色	2.5/74/1黒灰色	2.5/75/2灰白色	2.5/75/2灰白色	赤、茶色・白色含む	赤、茶色・白色含む	良	良		
第10回	2号住	12	漆黒器	坪	器種	□縫	—	—	10.7	—	2.2	タタキ	タタキ	—	—	10/69/1灰黑色	10/69/1灰黑色	—	—	赤、茶色含む	赤、茶色含む	良	内縫に墨有		
第11回	2号住	13	土師器	要	器種	□縫	31.6	60	—	—	(22.0)	口縫部ヨコナデ、 体部ヘラケズリ	ナデ、ハゲ	—	—	10/81/1黒褐色	10/81/1黒褐色	5/85/6にぶい褐色	5/85/6にぶい褐色	赤、茶色・白色含む	赤、茶色・白色含む	良	内縫に墨有		
第11回	2号住	13	土師器	要	器種	□縫	—	—	—	—	(9.5)	口縫部ヨコナデ、 体部ヨコナデ	ヨコナデ	—	—	7.5/86/4にぶい褐色	7.5/86/4にぶい褐色	—	—	赤、茶色・白色含む	赤、茶色・白色含む	良	内縫に墨有		
第11回	2号住	14	土師器	要	器種	□縫	17.5	40	7.5	100	13.8	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	7.5/85/6にぶい褐色	7.5/85/6にぶい褐色	5/85/4にぶい褐色	5/85/4にぶい褐色	赤、茶色・白色含む	赤、茶色・白色含む	良	外縫に明字は豆茶の 庄屋有		
第11回	2号住	15	土師器	要	器種	□縫	—	—	(10.6)	33	(10.0)	ナデ	ヘラナデ	木黒面	木黒面	7.5/85/6褐色	7.5/85/6褐色	1—6mmの縫合	1—6mmの縫合	赤、茶色・白色含む	赤、茶色・白色含む	良	庄屋有		
第11回	通縫外	1	漆製品	勺打ち金	器種	□縫	長6.8	—	2.8	—	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

表1 出土遺物観察表

## 第5章 結語

下神之木遺跡は、縄文・古墳・奈良・平安・近世の散布地として周知されていたが、発掘調査を行うのは今回が初めてだった。今回の調査では奈良時代に属する竪穴住居跡2軒と平安時代の土器片が確認されたが、そのほかの時代の遺構・遺物は確認されなかった。

2軒の竪穴住居跡の出土遺物は、1号住が8世紀第2四半期、2号住が8世紀第2四半期から第3四半期に位置付けられ、少し時間差がある。主軸方向がほぼ同一であることから、2軒の竪穴住居跡が同時に存在していた可能性も考えられる。いずれにしても本調査地点が居住空間として用いられたのは、奈良時代中頃の短い期間に限られていた。

本遺跡は、南北約300m×東西約150mの細長い範囲であるが、北側には八王子遺跡・伊勢之宮遺跡・金地蔵遺跡、東側には上神之木遺跡が隣接している。また西側には地理的環境でも記述したかつての小河川をはさんで森ノ上北遺跡がある。これらの遺跡の周囲にはさらに多くの遺跡が分布しており、本遺跡の周辺は八代地域の中でも遺跡が密集している地域である。今回の調査の結果を、こうした周辺の遺跡の調査状況と照らし合わせて考えてみたい。

北側に隣接する金地蔵遺跡はこれまでに3回の発掘調査が行われている。第1次調査地区は本調査地点より約330m北側に位置し、縄文時代の土抗1基・古墳時代前期の竪穴住居跡1軒・土抗3基・奈良時代の竪穴住居跡1軒、平安時代の竪穴住居跡6軒・土抗3基・溝状遺構3条などが確認されている。

第2次調査地区は第1次調査地区的東側から本調査地点の北側100mまでを農道の拡幅によってトレーニング状に調査し、縄文時代の竪穴住居跡1軒・土抗1基・古墳時代前期の竪穴住居跡1軒・古墳時代後期～末の竪穴住居跡2軒・古墳時代末から奈良時代初頭の竪穴住居跡6軒・土抗3基・奈良時代の竪穴住居跡6軒・土抗3基・平安時代の竪穴建物跡7軒・土抗1基・溝状遺構3条・中世の溝状1遺構4条・土抗1基・時期不明の竪穴住居跡10軒・土抗14基・溝状遺構2条・硬化面範囲1ヶ所が確認された。古墳時代後期から平安時代にかけての住居跡は、「南区」とした調査地中心部の交差点より南側に集中する傾向があった。

第3次調査地区は本調査地区的北側に隣接し、平安時代の竪穴住居跡2軒・土抗・ピット25基などが確認されている。

このように金地蔵遺跡の集落は、1次・2次調査区に散在するが、3次調査区では極めて限られたものとなっていた。この傾向は本調査地点でも認められ、3次調査区と本調査区は金地蔵遺跡の集落の縁辺部分に相当すると考えられる。地形的に見ても本調査地点の中央部分には埋没谷が確認され、南側には小河川が流れており、扇状地の傾斜に沿って細長い尾根状の微高地に本遺跡が立地しているものと思われる。地形的な制約があるので、居住地としては限られたものになったのだろう。

金地蔵遺跡の第2次調査地区からは、数点の畿内産（系）土師器が出土している。報告者は畿内産（系）土師器を「中央官人層との人的交流の意味合いが強い遺物」であり、金地蔵遺跡の集落が八代評家（郡家）の成立・存続に密接に関わった拠点的な集落であると位置付けている。

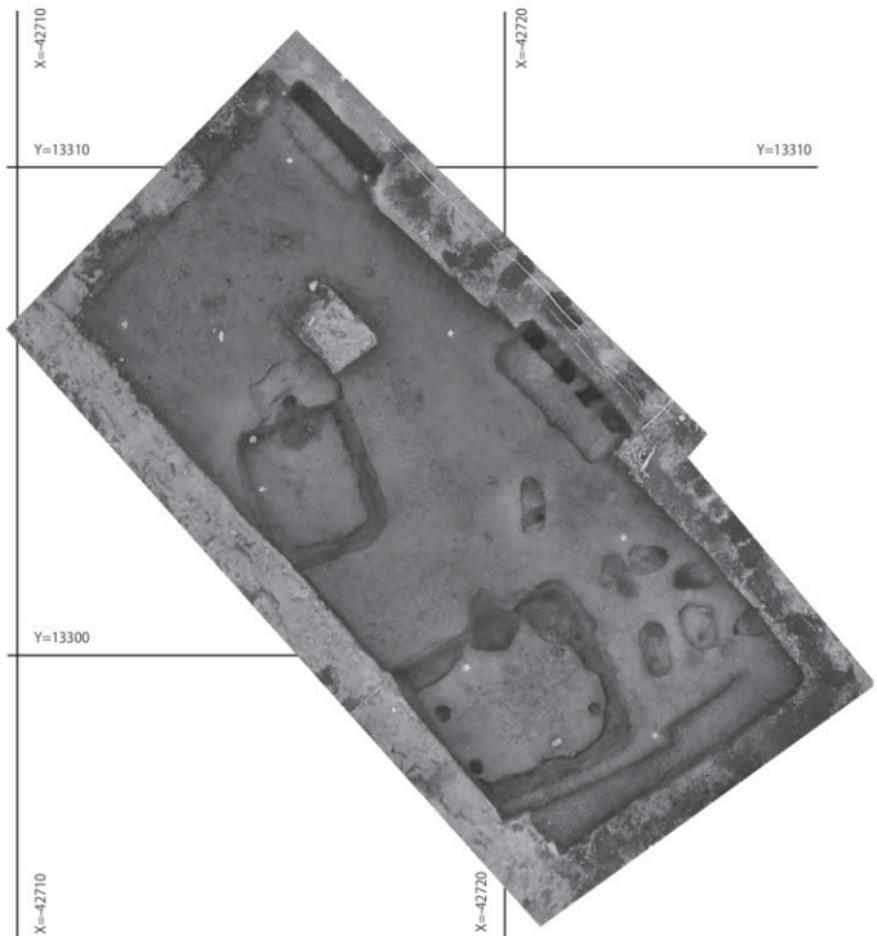
本調査地点では、1号住の竪穴前面から須恵器甕を用いた転用甕が出土している。転用甕自体は一般集落からも出土するが、「玉井郷長」の墨書き土器が出土した一宮町・大原遺跡で百点を超える転用甕が出土していることからも、行政の拠点となる遺跡から多く出土する傾向がある。本遺跡の転用甕は、奈良時代前半の住居跡から出土しており、比較的古い例になると思われる。この時代は墨書き土器もまだ少なく、一般集落で文字が呪術的な意味合いで普及していなかった段階である。文字の使用は行政的な文書の作成に比重が高かったと思われるでの、転用甕の使用は郡の下級役人が用いた可能性が高い。今後は転用甕の出土状況を概観する中で検討する必要があるだろう。

今回の発掘調査は限られた範囲であったが、奈良時代前半における好資料を得ることができた。今後周辺の調査事例とともに検討する中で、古代八代郡の実像を描くことができるだろう。

発掘調査ならびに報告書作成に当たって、関係各位及び関係諸機関より多大なるご理解、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

## 引用・参考文献

- 八代町 1975 『八代町誌』
- 山梨県教育委員会 1986 『若彦路』山梨県歴史の道調査報告書第8集
- 山梨県 1999 『山梨県史』資料編2原始・古代2
- 八代町教育委員会他 2003 『金地蔵遺跡』八代町埋蔵文化財報告書第15集
- 財団法人山梨文化財研究所他 2011 『金地蔵遺跡（2次）』笛吹市文化財調査報告書第20集
- 昭和測量株式会社他 2014 『金地蔵遺跡（3次）』笛吹市文化財調査報告書第29集
- 古柳塚古墳研究会 2004 「古柳塚古墳の研究」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第12集
- 宮澤公雄 2015 「竹居古墳群」『山梨考古』第137号



下神之木遺跡 オルソ画像 (S=1/100)

図版 2



1 調査地点近景(南から)



2 調査地点俯瞰写真(上が東)



3 調査地点全景(南から)



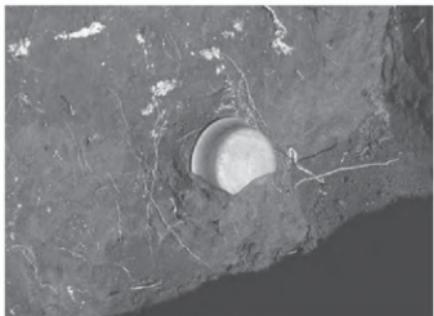
4 調査地点全景(西から)



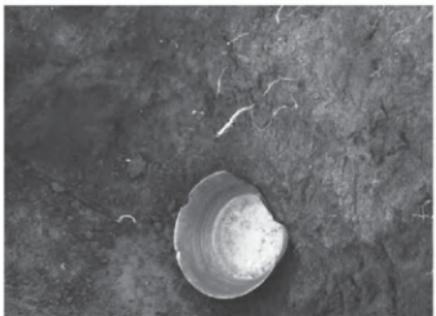
5 調査地点全景(西南から)



1 1号住居跡(西から)



2 1号住 遺物出土状況(遺物1)



3 1号住 遺物出土状況(遺物2)



4 1号住 竪セクション



5 1号住 竪

図版 4



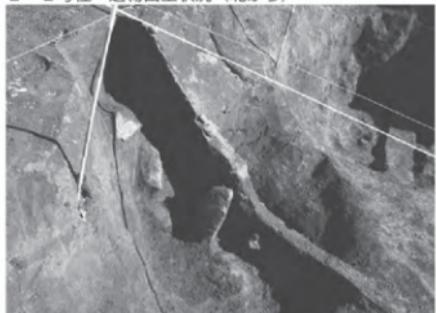
1 2号住居跡（西から）



2 2号住 遺物出土状況（北から）



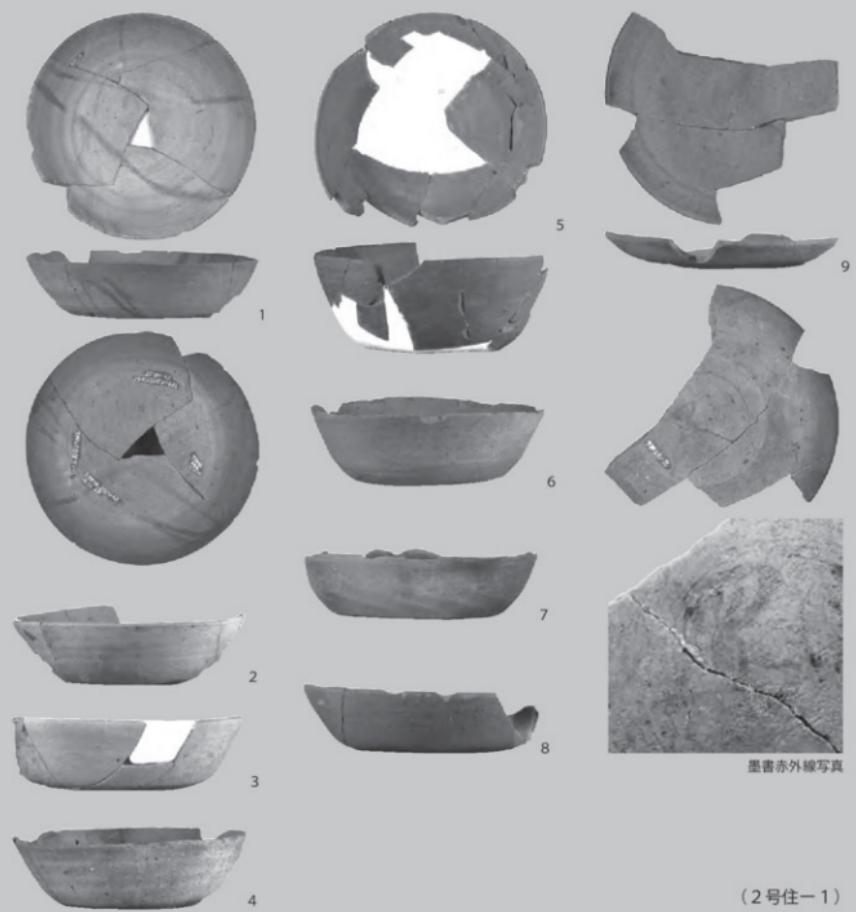
3 2号住 遺物出土状況（西から）



4 2号住 竪セクション



5 2号住 竪



住居跡出土遺物（1）

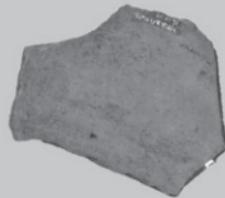
図版 6



10



12



11



13



14



15

(2号住-2)



1

(遺構外)

住居跡出土遺物（2）・遺構外出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	しもかみのきいせき
書名	下神之木遺跡
副書名	畑地帯総合整備事業笛吹川左岸地区支線2号2工区農道整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ	笛吹市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第34集
編著者名	瀬田正明
編集機関	笛吹市教育委員会（山梨県笛吹市石和町市部809番地1）
刊行機関	笛吹市教育委員会（山梨県笛吹市石和町市部809番地1）
発行年月日	平成28年（2016）3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しもかみのきいせき 下神之木遺跡	やまなしけんふえふきし 山梨県笛吹市  やつしきちょうきた 八代町北	19211	八代-63	35° 36' 53"	138° 38' 48"	2014. 10.24 ~ 2014. 11.11	200m <sup>2</sup>	農道整備
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
集落跡	奈良時代	竪穴住居跡2		須恵器・土師器 火打ち金				

笛吹市文化財調査報告書第 34 集

下神之木遺跡

畑地帯総合整備事業笛吹川左岸地区支線 2 号 2 工区

農道整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 28 年（2016）3 月 24 日 印刷

平成 28 年（2016）3 月 25 日 発行

編集・発行

笛吹市教育委員会

〒 406-0031

山梨県笛吹市石和町市部 809-1

印 刷

相互印刷株式会社

The Report of  
Archaeological Research of  
SHIMOKAMINOKI Site in Yatsushiro

Archeological Survey prior to construction of the  
Branch Farm Road No.2 Second Construction Area  
on the Left Bank of Fuefuki River

March,2016

Agricultural Department,Yamanashi Prefectural  
Development Office of Kyoutou Area  
Fuefuki City Board of Education